

TIJ 日本語教育研究会通信

No.62 2017.5.10 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



2017年3月、TIJでは設立以来最大人数の卒業生を送り出し、4月には最大人数の入学生を迎えました。外国人がますます増える社会の流れの中、皆様の現場でもたくさんの学生さんを迎えられたことと思います。

2月28日、TIJでは今年も文化発表会を行いました。今までの学習成果を発表する会ですが、どのようにすれば最大人数の学生にチャンスを与えられるか、どのようにすれば進歩につなげることができるのか、など考えさせられることが多々ありました。

今号に、お客様からのご感想、指導者からの振り返り、学生の発表原稿を掲載します。

【本号の内容】

1. TIJ文化発表会に参加して
2. 文化発表会は新たな視点を持たせてくれる場—文化発表会を開催して
3. プレゼンテーション原稿1 上級2A—宮崎駿の世界
4. プレゼンテーション原稿2 上級2B—どうして日本人は型にはまるのか
5. プレゼンテーション原稿3 就職クラス—IOT
6. スピーチ発表へ向けての指導
7. 学生スピーチ原稿1
8. 学生スピーチ原稿2
9. 国紹介の指導を通して
10. 紙芝居の指導をして

文化発表会に参加して

吉村共介

今年の文化発表会は2月28日、江戸川総合文化センターで開催されました。早めに到着して新小岩駅前に居るとTIJの生徒さんと思われる学生達が数人の集団で、明るい表情で話しながら会場の方向に向っていました。

私はTIJと6年ほど前からお付き合いがあり、文化発表会の参加は3回目になります。長年アジア諸国のビジネスマンのITやビジネス研修に携わっていたことがあり、日本で日本語を学ぶ生徒の現状に大変興味を持っています。

今回の文化発表会は、司会者チームの統制のとれたプログラムの紹介で始まりました。広い階段教室には150名を超えるアジア諸国出身の生徒が集まり、駅前で感じたリラックスした雰囲気のまま生徒達は仲間の発表を熱心に聴いていました。

最初の谷川俊太郎の詩の朗読は、初級クラスの生徒達が大きな声で暗唱し、緊張感が伝わってきました。

次の上級クラスの7つのプレゼンテーションは日本語だけでなく発表内容のレベルの高さに驚きました。「食品ロス」「宮崎駿」「和食」「日本人ははっきり言わない」「日本人は型にはまる」「IoT」など、自分たちが日本の日常生活で感じる身近な疑問や関心事をテーマに選び、仮説・分析・結論・提言／主張という論理的な構成で、分かり易いチャートを使った説得力のある説明でした。チームワークの良い発表は、日本社会や日本文化を理解しようとする生徒達の積極的な姿勢と意欲が伝わり、社会的にも企業でも通用する興味深い内容でした。また、「俳句」は漢字文化の共通点を理解するうえでも良い学習方法と思いました。

中級クラスの紙芝居「ももたろう」「大きなかぶ」は、ユーモアのある絵に合わせて沢山の生徒が声をそろえて演技をし、仲間の一体感を感じました。

上級の5人のスピーチは、正確な日本語で発表者の個性が感じられ、就職の面接などでも通用すると思います。

中級の5カ国の「お国紹介」は、自分の出身国の文化や特徴を的確に伝え、日本人にとって興味ある内容でした。自国の伝統衣装を着た生徒は生き生きとして見え、楽しい雰囲気になりました。特に「インドネシアとフィリピン」の紹介は趣味や夢の紹介など個性的で演技力も高く、楽しく聞くことが出来ました。

今回の発表会はクラス毎に工夫されたプログラムで映像を有効に使い、一人ひとりの個性が表れたとても楽しい会でした。また、多国籍の生徒が集まったことで、生徒たちは出身国に誇りをもって発表しているように思いました。

これは、忙しい中練習を重ねた生徒達の努力と、先生方のご指導の賜物と思います。

一昨年、ベトナムのダナン市の外国語大学で日本語研修の講師をしましたが、大学で日本語を学ぶ生徒達は悩みを持っていました。それは、日常生活で生の日本語を聞く機

会や話す機会がないということです。それに比べ、今日本で日本語を学ぶ生徒の皆さんは、ベテランの日本人教師から指導を受けることが出来、生活の中で日本語を使う機会が沢山あります。最近ではスマホやLINEだけでコミュニケーションをする人もいますが、日本での恵まれた日本語の学習環境を生かして、日本語に馴れ、学習効果を上げることが大切です。

また、日本語力の向上には目標を持つことが重要です。日本の大学に入る事、会社に就職する事、日本で音楽活動をする事など、将来の目標を持つことで日々の学習と努力を継続することができます。

これからも良い仲間やTIJの先生方との関係を大切にして、日本語を生かし活躍されることを期待しています。

2017年4月10日

文化発表会は新たな視点を持たせてくれる場

文化発表会を開催して

北内直子 (TIJ)

「文化発表会」という名で学校全体の発表会を行うようになった2014年から今回で4回目になります。

学生数の急増により、以前からお借りしていた会場が使えなくなり、初めて江戸川区総合文化センターの研修室をお借りして発表会を行いました。例年、年明けは発表の題目に頭を悩まされ、いかに学生を動かして発表させるかで大忙しになりますが、今回は新たに大きな課題が加わりました。初めての会場を使うという点です。

お借りしたのは研修室。定員182名の階段教室で発表者に視線が集中する大変立派な会場です。プレゼンテーションの画像の写り具合、音の出方、照明の当たり方、発表者交代時の動き方、会場の出入りの管理等、すべてが初めての事柄で、会場の下見をさせていただき、当日の進行を想像しながらスケジュールを組んでいきました。しかし、当日の会場では、パワーポイントの音声が出ない、照明があたらず顔が見えない等、ハプニングが続出。ぶっつけ本番というのはこういう事だと当日のバタバタぶりを思い返して反省しています。初めての映像機器を使いこなすなどの「難問」には、IT専門の学生(社会人)が難なく対処してくれ、彼らの姿が一回りも二回りも大きく見えました。

発表の全体についても触れてみたいと思います。

2014年より毎年文化発表会を開いていますので、多くの教師の中に指導についての経験と次回に向けての展望が蓄積されています。できるならクラスの全員に発表の機会をあげたい、参加するならより良いパフォーマンスができるように、音楽は？背景は？動画は？とどんどんイメージが膨らんでいきます。そうやってギリギリまで詰め込んで最善を尽くし当日を迎えるのが常です。その成果は、どの発表にも表れていました。

今回は審査による順位付けをなくしたので、学生も教師も(例年審査員を頼まれてい

たお客様も！) 気が楽で、その分、冒険というかちょっとした遊び心を随所に入れ込んだ発表が多く、観客として安心して楽しめました。会場全体を巻き込んでの紙芝居は圧巻だったと思います。また、自国での経験によるものかもしれませんが、堂々とした態度で会場に語りかける発表をした学生が何人もいたということも嬉しい発見でした。立派な会場の雰囲気になせる業ということもあると思います。

自分が担当するクラスの発表では、ここ数年、文化発表会におけるプレゼンテーションとは何かを模索してきました。自分たちが調べたことを発表するのはプレゼンテーションではなく調査発表であり、それならどんな形式がプレゼンテーションと言えるのか、ずっと考えてきました。指導する側に迷いがあれば学生にはなおさら伝わらず、なにか手を打たなければ例年通りの発表になってしまいます。

そこで今回は発表するべき項目を予め指定することにしました。

- ①テーマ設定の理由 ②問題解決に向けた仮説 ③現状 ④原因分析
- ⑤解決方法の提案 ⑥期待できる成果 ⑦結論

「外国人からすると不思議だと思える日本のあれこれ」をコンセプトに学生たちからアイデアを募りましたが、出てくること出てくること！ 10個以上出たテーマから「日本の食品ロス」「どうして日本人ははっきり言わないのか」「どうして日本人は型にはまるのか」の3つに絞り、現状や原因分析などを整理していきました。6カ国の学生たちが日本語で発表を作りあげていく様子を目の当たりにするのは語学学校の醍醐味でもあります。

準備段階のグループ討議で一番活発だったのが、「どうして日本人は型にはまるのか」のグループでした。彼らがアルバイトで日頃感じているやりにくさや効率の悪さなどが次から次に出てきて、そのような手順をとるのは会社でも最大限検討した上の事だろうと理解はできるのですが、外国人の視点とはこういうものだと知ること日本人には大切なのだと気付かせられました。

また、来日して2年近くになる彼らが実に「日本の感覚」を身につけていることも面白いと感じました。自分のアルバイト先の非効率的な仕事の手順をあれほどたくさんあれこれ挙げたのに、実際発表の材料として使おうとすると尻込みしたのです。「バイト先の方が発表当日見学に来られたら、きっと問題になるから。後輩もたくさんいるし」。和を重んじる日本の感覚をしっかりと身につけていくことも、外国で生きていく大切な処世法なのでしょう。

発表会当日、お客様から「どうして日本人は型にはまるのか」に衝撃を受けたというコメントをいただきました。外国の若者たちからこのような指摘を受けるほど、日本の社会は硬直してしまったのでしょうか。このことは、私たち大人には誰にでも思い当たることだと思います。発想豊かで柔軟な若者の意見を取り入れつつ、働きやすい社会に進んで行けばいいと、今回の発表会で気持ちも新たにになりました。

学生たちも、「衝撃を受けた」と感想をもらったり、発表の後で内容について質問を受けたりすることは、発表が認められたことだと理解したようです。学生には自信を、聞く側には新たな視点を持たせてくれる発表会の利点に思い至った一日でした。

プレゼンテーション原稿—宮崎駿の世界

上級 2A

はじめに

皆さん、このアニメ映画を知っていますか？このアニメを作った人が宮崎駿さんです。宮崎駿さんは日本を代表するアニメ監督として日本だけではなく、全世界的に知られています。私たちグループは皆、宮崎駿さんのアニメが大好きです。このアニメの魅力を、ぜひ皆さんにも知っていただきたいと思います。

宮崎駿さんは 1941 年 1 月 5 日東京で生まれました。子供の頃から絵と読書が好きだった彼は 1964 年に東映のアニメーターとして働き始めました。そして、1984 年に『風の谷のナウシカ』の大成功で一躍有名になりました。

その後『スタジオジブリ』を作り、『となりのトトロ』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』は、今までの日本映画の歴代興行収入トップ 3 で、全部宮崎駿さんのアニメです。そして、2003 年には第 75 回アカデミー賞で『千と千尋の神隠し』で長編アニメ映画賞を受賞しました。

作品の紹介

では、彼の代表的な作品を紹介しましょう。

①天空の城ラピュタ

『天空の城ラピュタ』は、スタジオジブリの最初の作品です。空に浮かんでいるラピュタ王国の宝物を欲しがると、それに対して戦う少女シータと少年パズーの話です。30 年前の作品とは思えないほど高いレベルの映像と内容で、自然との共存を妨害するのは人間の利己心、破壊的な欲望だと言っています。

②となりのトトロ

1988 年公開された『となりのトトロ』は 1950 年代の農村が舞台で、都市から引越してきたサツキとメイ、二人の姉妹が森の守り神トトロと出会ってからの話です。純粋な心を持っている子供たちにしか見えないトトロは自然が持っている生命力を表し、この作品も純粋な心を持っているからこそ自然との共存ができるということを言っています。

私の国での宮崎作品

私達のふるさとでも、宮崎駿の作品は、有名で人気があります。しかし、少しずつ、その国の事情が違います。中国、韓国、台湾それぞれの国での様子についてお話しします。

中国

まず、私のふるさと中国では、宮崎駿の作品は、映画館で公開されていません。でも、「千と千尋の神隠し」と「となりのトトロ」と「天空の城ラピュタ」は、みんなによく知られています。私は子供のころ、「もののけ姫」をテレビで見て衝撃を受けました。今の中国の子供たちは、著作権の問題で、テレビで見るができなくなっています。私は子供のときに見られて本当に良かったと思っています。

韓国

韓国でも宮崎駿さんのアニメは非常に人気を集めています。韓国では、1998年の日本大衆文化解放まで、日本の映画、アニメは見るができなかったのですが、その解放以来、韓国で1番愛されているアニメ監督です。特に2004年封切された『ハウルの動く城』は今まで封切した日本アニメの中で1番多くの観客数を記録しています。ただ、2013年9月に封切した『風立ちぬ』は、いつも反戦を主張している宮崎さん自身を主人公に投影した内容だったんですが、ゼロ戦を造った人の話だったことが理由で、封切られる前から反対運動まで起こり、その作品だけが批判を受けました。

台湾

宮崎駿のアニメは台湾の人にとって世代を超える人気があります。その中で「千と千尋の神隠し」というアニメは台湾で一番人気があります。なぜかという、最初そのアニメが上映されたとき、その中にある景色がちょうど台湾の観光地「九份」(きゅうふん)に似ていたために、宮崎駿さんがそこをモデルにしたのだ、と言われました。「九份」はもともと有名な観光地なのですが、その話が出て、話題になり、一層外国人観光客が押し寄せました。しかし、実は、それは事実ではありませんでした。彼は、確かに色々な所へ行って、参考にしましたが、「九份」には、行かなかったそうです。アニメのモデル地ではなかった、ということは残念でしたが、わたしにとって、その話があったからこそ、より多くの人々が「九份」を知り、旅行に来てくれるようになったことは、本当にうれしいと思います。今でも多くの日本人がその話を信じているようです。では、宮崎駿のアニメの人気の秘密はどこにあるのでしょうか？私たちは、次の3つの点について、分析してみました。

(1) 絵

この絵をごらんください。

宮崎駿さんの絵の秘密は情報量が多いことです。情報量とは絵の細かさ、線がどれだけ多いかということです。彼は作品の美術部分に非常に力を入れて、特に背景の美術に線を多く描いています。ですから、平面的なんだけど、繊細です。

そして、もう一つの特徴は、たとえば、背景を描く時にもCGなどのように完璧な絵ではなくて、観客が注目する部分だけを詳しく描いている点です。それが人間の目の認識の仕方そのままなので、結果的に脳が理解しやすい形になり、気持ち良い絵になるわけです。

(2) 音楽

皆さん、宮崎駿の映画の音楽で、何が一番好きですか？どの人も、宮崎アニメを見たら、必ずこの映画の中の音楽に深い印象を受けると思います。今、流れている曲もその中の一つ、「千と千尋の神隠し」の「あの夏へ」という曲です。これは、久石穰(ひさいし じょう)という音楽家の作品です。久石穰さんは、「風の谷のナウシカ」という宮崎アニメ初期の作品の音楽監督をしたことで注目されました。そして、その後、10作品の音楽を担当しています。宮崎駿のアニメは久石穰の音楽があったからこそ、世界中に広まり、久石穰の音楽は宮崎アニメがあったからこそ、その素晴らしさが開花したと言っても過言ではないでしょう。

最後に

宮崎駿さんの成功は彼ひとりではできなかったことです。宮崎駿さんと彼を支えているスタジオジブリのチームと一緒に力を合わせたからこそ、できたことだと思います。宮崎さんは純粋に自分の限界を超えることをめざして、追求し続けていると言っています。このことに私達は感動します。

私たちは、全員このアニメが大好きで、このプレゼンテーションのために、このアニメの魅力を探ってきました。今考えると、このアニメは、私たちの成長過程に欠かせないものでした。このアニメは特色のある魅力で人を感動させるだけでなく、心を癒すものでもありました。もう一度見ると、また違った感動や理解があると思います。もし、まだみたことのない方がいたら、ぜひ一度見てみてください。おすすめします。ご清聴ありがとうございました。

プレゼンテーション原稿—どうして日本人は型にはまるのか

上級 2 B

1. テーマの決定理由

今、宅配会社でアルバイトをしています。

配達時に荷物をつむ方法は決まっています。いつもトラックの荷台の向こう側は余裕があるにもかかわらず、手前側は荷物がいっぱい積んであって、向こうにある荷物を出すのが大変です。

それで先輩にどうしてそのように荷物を積むのか聞いてみたら、元々から決まっている方法だと言われました。

荷物の積み方を少しだけ変えれば今よりもっと早く手安く仕事ができるのと思うけど、元からしてきた方法だからと言って変えようとしなくていいのがどうしても理解できませんでした。

今回の発表のグループでは、皆が同じような経験をしていました。そこで、どうして日本人は型にはまるのか、ということをテーマにして、その解決方法を考えてみました。

2. 問題解決に向けた仮説

ルールを守ることは大事です。特に外国人からみると、日本人のルールに関する意識は他のどの国よりも高いことが感じられます。

しかし、そのせいで、日本で働いている外国人には、日本人は型にはまっていると感じられることも少なくないです。効率的な方法はだれでも考えているのに、でも実現できない理由はほかにあると思います。

たとえば、良い方法を自分なりに考えたとしても、今までのやり方に対して文句を言う人だと誤解されるのがいやだという気持ちもあるでしょう。勇気を出して自分が考えた改善策を挙げて、今までのやり方を無視するにはいかに言われるとどうしようもないのです。

そこで、今まで当たり前のようにしてきたことに対して、僅かなことでも改善しようとする意識を持つことが必要だ、という仮説を立ててみました。

3. 現在の状況

このアンケートをごらんください。

(仕事の効率化について日本人会社員に聞いたアンケート)

91%の人が効率を上げたいとこたえました。

さらに 40%以上の人ルールや慣習を改善して欲しいと答えています。

4. 原因分析

では、このように改善したいと考えていても改善できないのはどうしてでしょうか。

人は慣れていることを中々変えようとしないう傾向があります。現在の方法に問題がなければ変える必要がないと考えるのは当たり前かもしれません。

それだけではなく、大多数の考えとは違う意見を簡単に受け入れない雰囲気も社会に広がっていると思います。

5. 解決方法の提案

①改善策を言える雰囲気を作る

多くの人をもっと効率の高い方法に変えたいと思っているのに、提案を言い出すことすら難しいのでは何も始まりません。

まず個人としては問題点を挙げる人の意見を否定的に受け取らないこと、組織としては僅かなことでも話し合えるきっかけを作ることが大切だと思います。それは正式な会議ではなく、気楽にお互い話し合える場を持つことも大切だと思います。

②検証する

より効率高い方法を考えて話し合うことができれば、次に実行に移して検証して見るべきです。検証してその方法が有効であることがわかったら、取り入れる準備ができます。

6. 期待できる成果

少しずつでも効率を高めることが、結果的に仕事全体の流れを速くすることが期待できます。また、社員がみな、そのような意識を持つことも効率化につながります。

7. 結論

多くの人々が効率を高める方法を考えてより頑張ろうとしています。その考えが考えだけで終わらないようにみんなと一緒に努力することが大切です。

山を動かすのも小さな小石から。今までやってきたからと当たり前のように続けていることが、改善の機会を失わせることになってしまいます。

今、自分が運べる小さな石を運ぶことから始めれば、大きな山を動かすことも可能になるのではないのでしょうか。



プレゼンテーション原稿—I o T

就職クラス

皆さん、こんにちは。私達のチームは、「I o T」について紹介させていただきます。最近、ときどき耳にする「I o T」は、私達の生活を便利にしてくれるでしょうか。「I o T」とはどういうものか、皆さんにご紹介したいと思います。

説明は 概要、定義、活用例、長所と短所、そして結論の順に発表いたします。

皆さん、I o Tという言葉聞いたことがありますか？Internet of Thingsの頭をとって、アイ、オー、ティー、と読みます。日本語では、「モノのインターネット」と呼ばれています。

では、I o Tの世界を見てみましょう。(ビデオ) I o Tとは、インターネットに全ての「モノ」をつなげて、私達が知りたい「モノ」の情報や状態などを、離れている場所からでも知ることができる仕組みです。例えば、「今、部屋の温度は何度ですか。」とか、「ドアは今、開いていますよ。」などを知らせることができます。

では、どうやって、情報を取ることができるのでしょうか？見たり、聞いたり、触ったりできる情報はもちろんですが、それができない情報も、センサーによって数値化され、集めることが可能になります。モノのインターネット、I o Tでは、「モノ」にいろいろなセンサーを付けて、その「モノ」の状態をインターネットを通してモニターしたり、コントロールしたりすることによって、安全で快適な生活を実現しようとしています。

では、実際の活用例を見てみましょう。これはスマートハウスと呼ばれる例です。あらゆる家庭用品をインターネットで相互に接続します。例えば、エアコン、ライト、カーテン、バックグラウンドミュージックなどをインターネットとつなぎます。それにより、ユーザーにとってより快適な生活環境を作るよう、コントロールすることができます。

オランダの世界的電機メーカー、フィリップスの「フェ」というこの電灯は、スマホから家の中の明るさを調整したり、色を変更したりできます。

ウェアラブルは、体に付けるように設計されているセンサーや器具です。例えばこのデバイスは、靴につけると、今日何キロメートル歩いたかがわかります。腕につけたチップが内蔵されているブレスレットでは、今日どのぐらいよく寝たかがわかりますし、栄養状態がいいかどうかもわかります。ダイエットをしている人、高齢者、スポーツを

している人にとって、このデバイスは非常に便利です。

では、アイ・オー・ティーの長所は何でしょうか。まず、利用者は生活が便利になります。子どもやペットの世話が安心してできるようになります。カギのかけ忘れや電源の入れっぱなしを防止できます。企業は顧客のニーズを知ることができますし、稼働状況を知ることで、サービスの改善、製品開発に活かれます。その一方で、短所は何でしょうか。データのセキュリティとプライバシーが確保できません。また、まだ標準のデバイスがないため、違うメーカーの製品をつなげて使うことはできません。システムトラブルや事故などが起きると、社会全体の大問題になる可能性があります。

I o Tには以上のような短所もありますが、人類はいつも大きな問題を解決しながら、新しい技術を発展させて、生活に役立ててきました。私達はI T技術者の卵として、I o Tに大いに期待し、勉強し、幸せな社会を作る技術にしたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

スピーチ発表へ向けての指導

吉松眞弓 (TIJ)

2月28日の文化発表会で、上級1のクラスではスピーチをすることになった。全部で指導回数は8回で、最後から2回前の授業ではクラス内予選を行い代表者3名を選出するという授業計画で進めた。

第1回目の授業では、昨年度のスピーチ発表者のビデオを見せ、具体的にどのように発表するのかを知ってもらった。その後、①今回、テーマはなく、自由に自分の書きたいことを書くこと。②初級の学生からお客様まで全員に語りかけるよう、ていねいな言葉で書くこと。③インターネットやどこかで調べた難しい言葉や文をまる写しせず、理解できる自分の言葉、わかりやすい言葉で説明するように文章を書くこと。以上3点の注意事項を伝えた。

スピーチについての説明後、マッピングをしてもらうために白紙を配布した。まず、スピーチに書きたいと思う事柄、単語をいくつか書き出してもらった。書き出した単語を中心として、その単語に関連した事、具体的に説明したい事を木の枝のように広げて書いてもらった。その枝の多い単語は、書きたいことがたくさんあるものなので、構想が膨らませやすいと説明した。そのようなスピーチの主題として書きやすいと思われる単語が見つかったら、派生した事柄の先にも思いつく考えを書き足していくよう促した。

早い人は、その日のうちにたくさん書き出した中から自分が主題として書きたいことを見つけ出し、関連したより具体的なことを書き足すところまでできていた。一方、白紙のまままったく何も思い浮かばないと言う人もいた。この段階で、まだ文章は書き始めてはいないものの、すでに書くスピードや内容のまとまりなどに差が見られた。全員に対し、以下の3点を宿題にした。①主題を決め、そこからたくさん枝が出ているかを確認する。②そのテーマは、自分が書きやすい、書きたいスピーチであるかを確認してこること。③書こうとしている内容がスピーチとしてふさわしい内容かを考えるこ

と、を宿題にした。

次の授業では、それぞれがどのような内容のことを書くのか、テーマを発表した。それから原稿用紙に下書きを書き始めた。書く前に、原稿用紙2枚を目安に書くこと、丁寧語で書くことと構成に気をつけて段落に分けながら書くようにと書き方の説明をした。また内容についても注意点を説明した。①宗教的、政治的なことは書かない。②自分だけが楽しいこと、人が不快に思うことは書かない。③自分の意見や推測で断言するようなひとりよがりの意見は書かないようにする。以上の点に気をつけながら、この段階でテーマが決まっていた学生は、黙々と書き始めた。驚くほどの集中力で、どんどん書き進めていた。テーマに迷って書き始めることができなかつた人は、下書きを宿題でやってくると言って持ち帰った。

下書きが終わり提出されたものは、教師が文法の誤りや誤字脱字などをチェックした。中には、内容が恐ろしく難解で、何が書きたいのかさっぱりわからないものや、文の意味が不明なものもあった。そのような場合は、次の授業で本人と話しながら、内容や書きたいことを確認し、本人の主張を尊重し、自分自身で書きなおすように促した。

4回目、遅い人でも5回目までには清書を終わらせることができている。書き終えた人から読む練習をした。読む際に気をつける点を伝えた。①イントネーション、アクセントには注意する。日本語には、アクセントが違くと意味が違ってしまふ単語が多数あり、スピーチは聞くだけで理解してもらわなければならないので、間違つて伝わらないよう注意する必要があること。②早くならないように気をつける。自分自身は内容がわかっているのに早く話しがちだが、聞いている人に理解してもらえようなスピードで話す。

書いたものを正しく読むことができた人は、次の段階として覚えるようにと指導した。クラス内の予選の際は、全員が覚えている状態でスピーチすることを約束した。なぜなら、原稿を読むと下を向き、声が届かないからである。さらに、読もうとするのでどんどん早口になってしまう恐れがあるからだ。

クラス内予選を次回に控えた日、原稿を覚える作業と発音のチェックを学生一人一人をまわつてチェックした。そして、最終的にスピーチをする際の注意事項を伝えた。①大きな声ではっきりと話す。②目線を遠近、左右に均等に配りながら話す。姿勢は正しく、下を向かない。

クラス内予選では、発表者のスピーチを聞いて「スピーチどうだったシート」を書いてもらった。そのシートには、1. 声の大きさ 2. 話すスピード 3. 目線・態度 4. 内容 5. コメント（よかつた点・直した方がよい点）6. 総合評価 を書き込む。つまり、今まで授業内で気をつける点とされたことにしっかり配慮してスピーチができたかどうかを評価されるのである。全員のスピーチを聞き、学生と教師3名が書いたシートを集計し、代表3名が決まった。中国人の学生1名（女子）とインドネシアの学生2名（男子と女子）である。

代表者は本番の文化発表会で、堂々と自分が話したかつたテーマについて大勢の人の前でスピーチを行った。すばらしいスピーチであつた。

今回、指導する上で注意した事は、それぞれの段階に応じて、その都度注意する点を

明示することである。一度にたくさんのことを聞いても意識できないが、3つまでのことであればできるだろうと考えた。それから、ゴールを目指して、確実に自分たちが一段ずつ階段を上っているという実感を持たせることも大切だと感じた。反省点としては、クラス予選前に各々の発音練習をチェックし、完全に覚えるまで練習する時間がなかった点である。

このクラスでスピーチ指導を経験して大変勉強になった。学生は私の想定範囲を超えて、おもしろいことを書いてくれた。彼らは、いろいろな事を感じ、疑問に思ったり考えたりしている。学生には、教師が思う以上の力があると感じた。その力を引き出すために、教師は何をすべきか、それぞれの段階でどのような手助けをするべきかを考える機会になった。

学生スピーチ原稿ージェスチャー

上級1 アリ

皆さんおはようございます。上級1のアリと申します。

今回のスピーチでは異文化理解のことを話したいと思います。皆さんは、いろいろな国から来て日本で勉強をしています。自分の国の文化は、日本の文化と比べて少し違いますね。異文化理解についての具体的な例をあげます。

それはジェスチャーです。皆さんはジェスチャーを知っていますか。ジェスチャーとは他の人に何かを伝えるときにする身振り手振りのことです。

ジェスチャーは国によって違います。そこが一番面白いところだと思います。よく使われているジェスチャーは数字を表すものです。例えば、インドネシアと中国と日本では数字を表すためのジェスチャーは違います。1から5までのジェスチャーはほとんど同じですが、6から10までのジェスチャーは違います。

皆さんの中に旅行が好きな人がいらっしゃいますか。旅行が好きな人はジェスチャーに気を付けてくださいね。自分の国では良いことを表すジェスチャーでも外国では悪いことを表す可能性があるからです。例えば「すごい」や「素晴らしい」を表すジェスチャーです。皆さんはよく知っていますね。しかし、イランやアフガニスタンでは失礼なことを表します。

次のようなジェスチャーを知っていますか。アメリカやカナダやイギリスで「OK」という意味ですが、日本ではお金を表します。フランスではゼロの形を表しますので、ゼロという意味になります。しかし、ブラジルでは失礼なことを表します。「糞」の意味と近いですので、ブラジルでこのジェスチャーをしないでください。

今、私がしたジェスチャーの説明は異文化理解についての事例です。皆さんは日本で留学生として生活していますから、日本の文化やマナーを理解する必要があります。もし今後、他の国へ就職や旅行で行くことがあれば、その国の文化やマナーを必ず理解して守ってください。

皆さん「郷に入れば郷にしたがえ」という諺をよく覚えて理解してください。

ご清聴、ありがとうございました。



学生スピーチ原稿—日本のCM

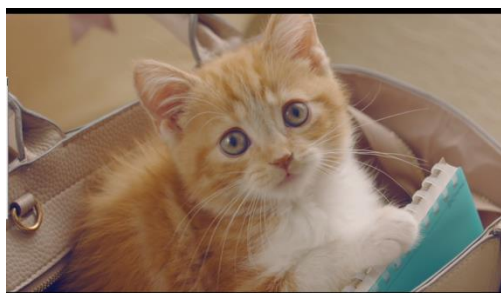
上級1 インディラ

皆さん、おはようございます。上級1のインディラと申します。

今日は日本のCMについてお話ししたいと思います。

皆さん、テレビを見るたびに、CMを見るのではないのでしょうか。CMは商業メッセージということです。たった30秒にすぎないのに、笑ってしまう時もあります。私は、日本のCMはセンスがいいと思います。なかには全く理解できないCMもあります。しかし、理解できなくても、そのCMのクリエイティビティが感じられ、細かい技術センスも見られます。昔、私は友達と日本のCMが何を宣伝しているのかとクイズを出し合いました。そして、毎回CMを見ると、つい「なるほど」と言いたくなりました。

日本のCMは説得力のある映像を使って、商品やサービスを細かく説明しています。変なダンスや格好やセリフが見られ、面白いでしょう。それを見た人は「おいしそう」とか「これはいいね」など考えると思います。では、皆さん、これは何のCMか分かりますか？



これはノートのCMです。CMでは、このかわいい猫はいろいろなプニプニものを見つけて、ノートの上も歩いていました。これはノートのリングが柔らかくて、手に当たっても気にならない、傷つかないということを表示しました。

日本のCMのスタイルやセンスに慣れていない人はそんなCMを見ると、変だと思
うかもしれません。しかし、よく見ると、面白いでしょう。テレビを見る時、番組だけ
ではなく、CMも見るようにしてほしいです。CMから日本の文化を学ぶこともできま
す。CMの日本語はかなり早いですが、日本語の勉強にも役に立つでしょう。最近、は
やっているものや芸能人なども知ることができます。友達とクイズのようにして見れば、
とても楽しいと思います。皆さんも、ぜひ日本のCMを楽しんでください。

国紹介の指導を通して

櫻井優子 (TIJ)

2017年2月28日に文化発表会が行われた。1年生も2年生も全員参加する学習成果
を発揮するイベントである。今回は、卒業クラスである中級3の国紹介の指導を担当し
たので、その感想を述べたい。そして最後に文化発表会の全体企画についても触れたい
と思う。

中級3クラスのプレゼンテーションでは、ベトナム、中国、韓国、フィリピン、イン
ドネシア、スリランカなどの学生が国の地理や観光名所、衣装や楽器、食べ物や飲み物
などの国の特色について発表した。学生はみな、それぞれの特徴を日本語で表現するた
めに試行錯誤しながら取り組んでいた。またパソコンを使い、プレゼンテーションをよ
り多くの人にわかってもらう努力をしていた。このような文化発表会の準備を指導して
いて、感じたことは二点ある。

まず一つ目は、今回の文化発表会の準備から発表にいたるまでに、学生の語彙が増加
し、漢字力が向上したということである。中級3クラスでは非漢字圏の学生が9割以上
を占めていたが、非漢字圏の学生の漢字に対する嫌悪感は根強く、毎日の練習でもなか
なか身につかない。しかし文化発表会に向けて、学生がいつもにもまして、授業では見
たこともない新しい漢字の読み方を聞いてきたり、語彙が正しいかどうかを確認してき
たりした。普段は見慣れないものでも取り入れられたのは、何よりも興味のある好き
な分野だからなのだと思う。そのように興味ある分野について話す中で、イメージに合
った語彙、漢字が自然と頭の中に入ってきて、その語を自分のものにできたのだろうと
思う。

二点目は、学生の発表時の態度がよい方向に変化したことである。授業では中級以
降は会話の時間も少なくなり、発音練習などはあまりなくなる。でもこの時ばかりは本
当に一生懸命、発音矯正しようと努力していた。間の取り方、目線なども含め、より魅
力的なプレゼンテーションにするためにあらゆることに注意を払うことで、日本語の総
合力がついた。

以上のように自らが興味を持ち、それを掘り下げることで語彙力がつき、発表時の態
度を魅力的に見せるという努力が今回の文化発表会で見られた。これは、今後の学生た
ちの基盤となっていくことと思う。

文化発表会全体では学生が詩、紙芝居、プレゼンテーション、スピーチなど様々な方法を通して、学んだ日本語を披露していた。丸覚えした詩を緊張しながら発表したこと、紙芝居やスピーチで心情に合わせて発表した日本語でお客さんが笑ってくれたこと、プレゼンテーションで興味ある分野の語彙を覚え、お客さんに意味が通じ受け入れられたこと、そうしたすべての記憶が、今後別の場面で再びよみがえってきたり、関連付けられたりしていく。今、覚えたことがこれから日本語を学ぶ上でとても大切になってくるだろう。文化発表会はこのような日本語の総合力を育てるための場であり、学生にとって成長する良いきっかけになるものだと思う。



紙芝居の指導をして

—ももたろう—

中本 澄代 (TIJ)

初中級・中級1クラスは紙芝居をやると決まったとき、「スピーチよりは学生たちが楽しんでやれるだろう」「自主的に進めていこう」と安易に考えた。担当クラスの学生たちの出身はベトナム、スリランカ、ミャンマー、ウズベキスタン、中国。個性的で自己主張の強い学生がそろっている。

発表会までのスケジュールを組むにあたり、クラス全員が準備・練習に参加できることを目標にした。そのためにチーム分けをして練習をし、クラス内予選を発表会直前に行き、発表会に臨もうと考え、以下のように進めることとし、発表会2週間前に開始した。

- (1) 演目決定・場面分け・登場人物決定
- (2) チーム分け・配役決定・脚本作成・練習
- (3) クラス内予選会
- (4) クラス全体の配役決定・練習

ここからは(1)～(4)がどのように進んだか、そのときの学生の様子などを述べる。

(1) 演目決定の前にもう一つのクラス担当の先生と「登場人物が多いもの」「明るく内容のもの」を探し、「ももたろう」「一寸法師」「おむすびころりん」「大きなかぶ」「うらしまたろう」「さるかに合戦」「わらしべ長者」の7つを候補とした。ここからは、

学生たちが自分たちで決めたという気持ちを持ってほしい。物語の前半を動画で見て、やりたいものに投票し、開票作業も学生がやり、圧倒的多数で「ももたろう」に決まった。「ももたろう」の動画を最後まで見て、場面を切り取る作業を全員で行う。この動画は彼らの日本語力でも十分に楽しめるものだったので、積極的に場面の切り取りに参加して、17の場面が決まった。登場人物はナレーターを入れて8～10人なのでクラスを2つのチームに分けることにした。チーム分けは教師に任せてくれることとなった。

(2) 国籍、日本語力、男女が均等になるように2つのチームを作った。学生たちはチームに「ピーチボーイ」「カインドボーイ」という名前をつけた。ナレーター以外のせりふがところどころ空白になっている脚本を渡し、それぞれのチームで脚本を完成させる作業と配役決定を進めていくように指示した。一つのチームは楽しそうにワイワイと進めているが、もう一つは全く進まない。うまくいかないと涙ぐむ学生までいる。個性と個性が混じり合うことによって化学変化が起きたのだろうか。予想外の展開だった。練習に入ってもらおう先生方にもご協力をお願いして、なんとか二つとも練習できるようになった。

(3) クラス内予選では欠席者がいたため、急きょ反対のチームの学生が代役を務めてくれた。当初は配役ごとに上手な方を選んでクラス代表にと考えていたが、練習の様子を見て、全員から代表者を選出するほうがいいものができるかと判断した。学生には、全員の中からよかった人二人を選ぶように指示し、予選会を見ていただいた先生と担当に判断を一任してもらえよう話した。

(4) 学生の投票結果をもとに配役を決定。ここから全体練習が始まるが、役のない学生にも当事者意識を持ち続けてもらいたいので、「ももたろう」の歌を入れることにする。また、パソコン操作担当者も決まり、教師なしでの進行練習に移った。残りの練習日は2日。担当してくださる先生方にすべてお任せして、発表会当日を迎えることになった。

発表会当日は名声優のような表現で会場を沸かせる場面もあり、楽しそうにやっている姿を見ることができて安心した。また、授業中とは全く違いかなり緊張している学生もいて、人はいろいろな面を持っていることをあらためて認識させられた。

紙芝居の準備には、パソコン、インターネットなどの知識、操作能力が必要で、私には未知、力量不足のことが多々あった。それを一つ一つ丁寧に教えてくださったり、代わりにやってくださったりした山西先生に感謝している。また、物語の候補選定、練習などでたくさん先生方にご協力いただいた。

今回の経験を糧に来年の発表会ではもっと多くのことを学生たちが自主的にできるよう成長していくことを願っている。